

ニュータウン自治会の形成初動期における 活動内容と運営方法について —兵庫県三田市ウッディタウン・あかしあ台 自治会を対象として

藤 本 真 里

Initiation, Activities and Management of Inhabitants Council in New Town —A Case Study of The Inhabitants Council in Akasia-Dai, Woody Town

Mari FUJIMOTO

Keywords: New Town, Inhabitants Council, Town Management

はじめに

神戸市北区から三田市に開発された神戸三田国際公園都市の中で、開発面積598ha、計画人口48,000人と最大規模であるウッディタウンは、住宅・都市整備公団(以下、公団と略す)が新住宅市街地開発事業により開発したもので、昭和62年、街びらきに至っている。あかしあ台はウッディタウンにある4住区の中のひとつで、あかしあ台自治会は、ウッディタウンで最初に設立された自治会である。

自治会は、地域を代表する組織として一般的に位置づけられており、住民参加のまちづくりをめざす組織に参加を求められることも多い。しかし、自治会組織の形態・しくみは様々で、活気を失っていたり、地域の意向を把握できていない組織も目立っている。様々な外的要因はあるものの、組織の運営方法にも大きな問題があるものと考えられる。あかしあ台自治会は、三田市内でも活動がさかんであることで際だっており、その活動内容や運営方法には多くの示唆があるものと考えられる。そこで本報告では、あかしあ台自治会発足初動期の活動を支えたしくみを分析し、今後の自治会の運営方法を再考することに役立てることを目的としている。

研究方法

自治会が発行している広報誌「あかしあ」創刊号(平成元年8月発行)から18号(平成9年3月発行)、第1回から第9回定時総会議案書、自治会規約といった資料をもと

に自治会及び各専門部会の活動内容、組織構成を把握した。さらに、発足から初動期のプロセス、運営方法などを初代事務局長から、活発な活動を支えた要因などについて、3人の初代専門部会長からヒアリングを行った。

調査結果

1. 組織の概要

あかしあ台自治会は、平成元年に小学校区を区域として設立された。設立当初、89戸の会員数からスタートし、平成3年には1,150戸と急激な増加を示し、平成9年の4月現在では1,963戸になっている(図1参照)。自治会は、全戸加入が一般的であるが、あかしあ台では、それぞれの意志を尊重し任意加盟制にしている。平成9年3月末現在の世帯数は、2,499戸(住民基本台帳による)であるので、

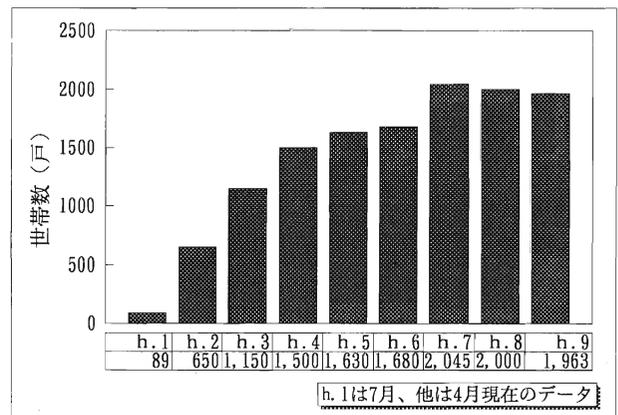


図1 会員世帯数の経年変化

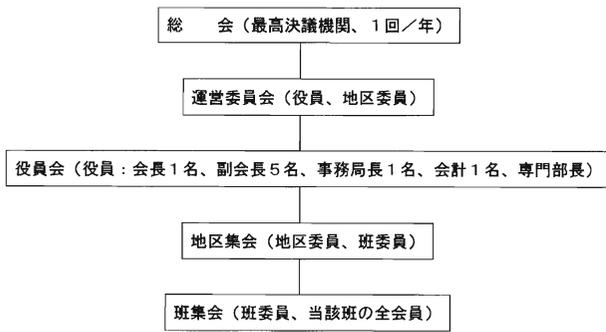


図2 組織構成

約79%の世帯が自治会に加入していることになる。比較的転出入の多い賃貸住宅において、自治会加入率が低い傾向にある。

組織構成は、図2の通りで、班は10戸を基本として、地区は10班を基本として構成され、班委員は輪番制で、地区委員は班委員の中から互選で選ばれ、地区委員の中から役員が選出される。また、役員は毎年選出するが4選を限度としている。

自治会費は、設立当初は、500円/月であったが、住民からの要望により、平成8年度から5,000円/年と減額している。平成9年度予算案において、収入は会費収入と三田市からの委託料、補助金、前年度繰越金などで約1千900万円になる。

2. 発足から初動期の組織形成プロセス

ある住宅の庭にアマチュア無線用鉄塔(最高30m)が立ち、周辺住民による撤去運動がはじまり、その問題解決後、住環境保全の必要性から自治会設立の動きへと発展した。あかしあ台を含むウッディタウンには、入居が始まる前の昭和61年から地区計画が定められている。地区計画では、建築物用途、敷地面積・建築面積の最低限度、建築物の高さ、壁面位置、建築物に掲げる広告物や屋根勾配などの意匠の制限、かきや柵の構造制限が定められている。そのため、一定の住環境が保全されているものの、地区計画のルールにない住環境改変が起こった場合の対処の必要性を感じたことが発端である。約3ヶ月間に、7回の設立準備委員会、4回の規約作成部会、「あかしあ台自治会設立に向けて」第1号～3号の発行等の準備作業を経て、平成元年7月に設立総会が開かれている。設立当初の役員12名の内、50代2人、40代7人、30代3人と、団塊の世代を中心とした若いメンバーで、役員自身も設立当初のパワーの源のひとつを若さであると答えている。役員の職業は9人が会社員(事務系5人、技術系4人)、自営業1人、学校教師1人、医師1人で、パソコン技術、労務管理、建築設計など、それぞれの職場での能力が自治会運営にも活かされ、効率的な作業、スムーズな会議運営、多彩な活動内容が実現している。

自治会活動に参加した理由を3人の初代専門部会長はいずれも初代事務局長に誘われたためと答えている。また、設立当初に活動が盛んに行われた要因として、全員が「何もないところに組織をつくる楽しさ」をあげている。また、発足から初動期に関わった感想として、「今まで自治会運営について言えなかったこと、できなかったことができた」という内容もあり、既存の組織が全くないニュータウンにおける組織形成の特徴が現れている。その他の感想として、「利害関係がないところで、ひとつの目標に向かって、創意工夫しながら熱中できたことが楽しかった」「異なる部門や外部の人を説得する技術を得るなど仕事にもプラスになった」「いろいろな人と知り合いになれて、老後も楽しみだ」など、発足から初動期で非常に忙しかったものの、充実していたことがわかる。

設立当初の役員間の議論から、区域を小学校区にすることが決められている。一般的に自治会が形成される町・地目レベルの規模は、あかしあ台における班や地区に相当する。「平成9年度あかしあ台自治会地区委員・班委員事務引書」によれば、広報などの回覧・配布、自治会費の集金、グリーン・クリーン・デーや夏祭りの手伝いなど日常のルーチン・ワークは班委員、地区委員が行っているが、組織全体及び各部会の活動方針などは小学校区レベルで決められており、活動の中心は小学校区で展開しているといえる。会員戸数が増えるにつれ、会員の意向が自治会活動に反映できていないのではないかとという危惧から、平成4年度から地区活動費として地区での集まりに対して1,000円/人を支給し、その会議内容記録を提出するというしくみをつくり工夫している。

また、設立当初の役員間の議論から、婦人会、子供会をつくらないことも決めている。役員が多くが従前の居住地での経験から必要ないと考えたためであるが、平成2年度に自治会の中につくられた婦人文教部はそれらの代替機能を果たしている。

3. 活動内容

(1) 役員会、運営委員会の活動

表1～3は、役員会、運営委員会の活動と各専門部会の活動内容一覧で、自治会が設立された平成元年度、都市計画部会が発足した平成3年度、最近の平成8年度を取り上げている。

設立当初は、役員会、運営委員会ともに月に1～2回の頻度で行われている。これらの回数は減少し、平成8年度には2ヶ月に1回になっている。設立から3～4年は、各専門部会に分かれて、部会の活動内容を検討するのではなく、役員全員で各専門部会の活動内容を検討しており、様々な立場からの意見が出て、活発な議論が展開している。発足から3～4年は、開発の動きが非常に大きく、人

表1 自治会活動一覧（平成元年度）

月	役員会等	広報部	環境部	文化部	体育部
7月	自治会設立 総会				
8月	第1回運営委員会 第2回運営委員会 班委員・地域委員・説明員会合同	広報「あかしあ創刊号」発行			
9月	第1回役員会 第2回役員会 第3回運営委員会 自治会規約全戸配布	「お知らせ」発行 「お知らせ」発行	グリーン・クリーンデー		三田市民運動会
10月		共同生活のルールアンケート			トッポボール大会
11月	第3回役員会 第4回運営委員会	「お知らせ」発行 「お知らせ」発行			
12月	第4回役員会 第5回運営委員会	「お知らせ」発行		もちつき大会 歳末助け合い運動	三田マナースマイル大会協力
1月	第5回役員会 第6回運営委員会	広報「あかしあ2号」発行		とんど焼き	
2月	第6回役員会 第7回役員会 第7回運営委員会 ゴミ・リサイクルに関する7カ所実施	「お知らせ」発行			
3月	第8回役員会 第9回役員会 第8回運営委員会	「お知らせ」発行	グリーン・クリーンデー あかしあ百人居記念植樹祭		

口が急増している時期であり、社宅、民間マンション、沿道型商業施設を含むあかしあ台では、大きな問題が多くあったことが予想され、役員全員の議論が重要であったと思われる。他方、開発が一段落し、それぞれの部会の活動も軌道に乗った現在は、活動の多くがルーチンワーク化している。最近の活動について、「各部会に分かれて効率的にはなったが、あまり議論しなくなって、活動がマンネリ化して楽しくないのではないか」という役員の指摘もある。

現在の役員会における最大の課題は、入居者の世代に偏りがあるため一斉に迎える高齢化社会である。自治会全体の課題として、調査検討が進められており、自治会による老人ケア施設運営等のアイデアも出ている。

また、年間最大行事である「あかしあ台夏祭り」（平成3年度～）は役員を含む20人あまりで構成される実行委員会が運営する。主たるメンバーは役員OBでメンバーの変動は少ない。この祭りが、地区委員、班委員が一堂に会する唯一の機会である。

(2)都市計画部会の活動

都市計画部会では、マンション建設、社宅建設、店舗開業、道路工事等公共工事において、開発側である企業、行政、公団と住民の間に入って、情報提供から協議のた

めの調整、協定書・誓約書などルールづくりの支援までを行っている。この活動は、「自分たちが知らない間にまちが変わってしまうのはいやだったので、自分たちから能動的に行政等に働きかけたい」という思いから始まっている。設立当初は、環境部会がその役割を担っていたが、需要が高まり、初代環境部会長が初代都市計画部会長となって、平成3年度に発足している。開発が一段落した平成7年度で廃止され、以降、役員会がその役割を担っている。

調整にあたって、自治会側は、開発側と当事者である住民の間に中立の立場で望んでいる。住民による日照や騒音等に関わる過度な権利主張は、都市計画部会長がたしなめる場合などもあり、調整役として柔軟な対応を行っている。5年間の活動の概要は表4の通りである。単に口頭説明で処理されるものもあったが、協議が滞る場合などもあり、大きな問題の場合は、役員会のバックアップを受けている。自治会会長、副会長、事務局長、都市計画部会長は、情報収集や議論のために、日常的に公団、三田市の担当部局を訪れ、関係を密に保っている。

マンション建設、社宅建設などに伴う誓約書策定のための協議は、まず、自治会に提供された開発に関わる情報を、直接利害関係の発生する住民（関係範囲は広めに設定）に提供しつつ、開発側に説明会を求め、関係する住民に案内する。その後、地元で対策委員会をつくり、誓約書の内容を検討する。その委員会に会長、都市計画部会長が参加し協議を調整する。ただし、これらの方法は基本的なものであり、自治会が関わらずに個人的な交渉で解決される場合など様々な形態がある。

次に協定書策定において、主たる内容である安全対策については、地域全体に関わることであるため、役員会で内容を検討する。利害が絡んでくる場合は、協定書策定と同様のプロセスを踏む。

(3)防犯部会の活動

防犯部会は自治会発足当初からあるが、平成2年度に防犯交通部会と改称している。沿道型の商業施設周辺中心に起こる路上駐車対策が最も大きな課題であった。住民に対する路上駐車に関するアンケートを行い、三田市や当該商店会に申し入れを行っている。

(4)環境部会の活動

環境部会は、自治会発足当初に公園や街路など公共空間の雑草処理の必要性から生まれている。年5回、三田市主催で行われるグリーンクリーンデー（清掃奉仕）では、当初、自分の庭の草引きや家の前の掃除など、身近なところからはじめましょうという参加の呼びかけを行い、より多くの参加を募る工夫を行っている。その他、平成2年度から月1回のリサイクルデー（古紙回収）、平成3年

表2 自治会活動一覧（平成3年度）

月	役員会等	広報部	環境部	文化部	体育部	婦人文教部
4月	定時総会	「お知らせ」発行	リサイクルデー(古紙回収)			(子供文庫 毎週土曜日午後開館)「あかしあ台の会(老人会)の毎月午後開館)
5月	第1回役員会 ・運営委員会 地区委員会 地区説明会 第2回役員会	「お知らせ」発行 「あかしあ第6号」発行	リサイクルデー(グリーン・グリーンデー(清掃奉仕))			
6月	総合アンケート実施 第3回役員会 第2回運営委員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー	日本赤十字募金募集	ハレボール大会	
7月	夏祭り実行委員会 第4回役員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー(グリーン・グリーンデー)			
8月	第4回運営委員会 第1回夏祭り 第3回運営委員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー			
9月	第5回役員会	「お知らせ」発行 「あかしあ第7号」発行	リサイクルデー 空きビン回収 グリーン・グリーンデー		三田市民運動会	敬老会 文化講座「秋の園芸講座」
10月	第6回役員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー 空きビン回収	開基・将棋大会 赤い羽根共同募金運動	ドッジボール大会	
11月	第4回運営委員会 第7回役員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー 空きビン回収		フットボール大会	文化講座「三田の歴史」
12月		「お知らせ」発行	リサイクルデー 空きビン回収 グリーン・グリーンデー	もちつき大会	三田マスターズマラソン大会協力	料理教室 文化講座「三田おもしろゼミナール」 子供文庫クリスマスデー
1月	第5回運営委員会 第8回役員会	「お知らせ」発行 「あかしあ第8号」発行	リサイクルデー 空きビン回収	とんど焼き		文化講座「健康講座その1」
2月		「お知らせ」発行	リサイクルデー 空きビン回収			料理教室 文化講座「健康講座その2」
3月	第9回役員会 第6回運営委員会	「お知らせ」発行	リサイクルデー 空きビン回収 グリーン・グリーンデー			料理教室 文化講座「春の園芸教室」

度から月1回の空きビン回収が開始され、継続している。雑草処理から端を発して、リサイクルへと活動範囲を広げて発展している。

(5)施設管理部会の活動

三田市では、ホロンピア'88開催時に恒久施設としてつくられた建物をあかしあ台自治会の意向を反映しつつ、地域のコミュニティハウスとして改装し、平成2年度にオープンさせている。施設管理部会はその運営組織として発足している。コミュニティハウスは、役員会、運営委員会などが行われるなどあかしあ台自治会の活動拠点であり、平成9年4月現在で、表5のような活動が行われており、大集会室(90m²)、10畳の和室2室、研修室(70m²)の稼働率は100%に近い。現在、祝日を除く全日、自治会で雇用している事務員1名が9:00～17:00に常駐している。このように常駐する人員を確保する自治会は、三田市内ではあかしあ台のみである。事務員は自治会の窓口として重要な機能を果たしている他、回覧等のとり

まとめ、郵送物発送などを行い、自治会長の事務負担を軽減してきている。

(6)婦人文教部会

婦人文教部は平成2年度に発足している。あかしあ台では、既存の地区に多く見られる自治会とは独立した婦人会、子供会を設けていない。しかし、それらの機能の一部は、自治会内にある婦人文教部会が担っている。平成7年度には婦人部と文教部に分離し、婦人部は、料理講習会を中心に、文教部は、コミュニティハウス内に子供文庫を開設し、それを活用したイベントを中心に子供を対象とした活動を展開している。それぞれ、一部ではあるが、従来の婦人会、子供会の機能の一部を担っている。

(7)その他の専門部会の活動

上記以外の専門部会には、広報部会、住民間のコミュニケーションを深めるための活動を中心とした文化部会、

表3 自治会活動一覧（平成8年度）

月	役員会等	広報部	環境部	リサイクル部	文化部	体育部	婦人部	文教部
4月	新役員会 総会 第1回運営委員会	「お知らせ」 発行		リサイクル部 （古紙回収）	（園芸通信6 回/年発行）			（子供文庫 毎週土曜日 午後開館）
5月	第1回役員会	「お知らせ」 発行	グリーン・クリーン デー（清掃奉 仕）	リサイクル部		フットボール大会		
6月	夏祭り実行 委員会 第2回運営 委員会	「お知らせ」 発行		リサイクル部	日本赤十字 募金募集		料理講習会	
7月	夏祭り盆踊 り練習会開 始 第2回役員 会	「お知らせ」 発行	グリーン・クリーン デー	リサイクル部		ふれあい三 田丹波杯フ ットボール 大会参加		夏休み親子 体験（サド アクトによる コップ作り）
8月	夏祭り地区 委員説明会 第6回夏祭 り 夏祭り反省 会	「お知らせ」 発行		リサイクル部				
9月	第3回運営 委員会	「お知らせ」 発行	グリーン・クリーン デー	リサイクル部			敬老会 料理講習会	
10月	第3回役員 会	「お知らせ」 発行		リサイクル部	赤い羽根共 同募金運動	三田市民運 動会 リサイクル運 動会		
11月	第4回運営 委員会	「お知らせ」 発行		リサイクル部			料理講習会	子供文庫 （ミュージ ック鑑賞）
12月	第4回役員 会	「お知らせ」 発行	グリーン・クリーン デー	リサイクル部		三田マスターズ マラソン大会 協力		紙芝居と絵 本の読み聞 かせ
1月	第5回運営 委員会	「お知らせ」 発行		リサイクル部	とんど焼き			紙芝居と絵 本の読み聞 かせ
2月	第5回役員 会	「お知らせ」 発行		リサイクル部		ドッグボール 大会		
3月	自治会総合 アンケート 実施 自治会事務 説明会 第6回役員 会 第6回運営 委員会 自主防災会 結成式	「お知らせ」 発行 「あか しあ春号」 発行	グリーン・クリーン デー	リサイクル部		ウォーク大会	料理教室	紙芝居と絵 本の読み聞 かせ

表4 都市計画部会の活動内容

年度	口頭説明	マンション誓約書（建物位置、生け垣設置等）締結支援	マンション建設工事協定書（安全対策等）締結支援	工事に伴う企業や三田市兵庫県との交渉	民間企業と住民の間の協議支援	その他
'91		・マンション建設における誓約書締結支援活動 ・社宅建設における誓約書締結支援活動			・大規模な民間企業研修施設建設に関する話し合い支援活動	
'92	・日照、眺望に関して口頭説明 - 3件 ・騒音、振動に関して口頭説明 - 2件 ・建築協定に関して口頭説明 - 2件 ・空地の利用計画に関して口頭説明 - 2件 ・工事車両の運搬経路に関して口頭説明 ・レスラン駐車場の車両出入りに関して口頭説明 ・施設の地域開放に関して口頭説明		・マンション建設工事協定書締結活動 ・マンション建設工事に伴う工事協定書の支援 ・マンション建設工事に伴う工事協定書締結後の協議支援			
'93	・道路の今後の延伸計画について口頭説明				・大規模な民間企業研修施設屋外競技場の夜間照明について施設側と協議、改善 ・当該住民会と民間企業研修施設との間の協議の交渉窓口について	
'94				・交差点工事に伴う三田市との交渉		
'95				・配水池のポンプ棟新設工事に伴う兵庫県との交渉 ・小学校校庭一部地下に雨水貯留設備設置工事に伴う交渉 ・三田市配水池増設工事に伴う交渉 ・県企業局大型配水池新設工事に伴う交渉 ・県企業局送水管地下敷設工事に伴う交渉		・コンビニエンスストアの営業時間の延長申し入れに対して反対の意向を文書で提出

表5 コミュニティハウスを利用した活動

運動系	文化系
健康体操 1 週 1	大正琴 月 1
健康体操 2 週 1	コーラス 週 1
ヨガ 週 1	カラオケ 月 2
ヨーガ 週 1	和裁 月 2
太極拳 1 月 2	刺し子 月 2
太極拳 2 月 3	書道 月 2
初心者向け太極拳 月 2	囲碁 週 2
フォークダンス 月 2	

体育部会がある。その活動の概要は表1～3に示すとおりである。初代文化部会長は、ニュータウン外の三田市住民との交流を図ることを大きな目標として、もちつき大会に際して、三田農協や青年部の協力を得て、イベントを盛り上げる工夫を行っている。文化部会、体育部会では、経費節約、担当者の負担減などを理由に、行事は少なくなっており、もちつき大会などもなくなっている。

考 察

あかしあ台自治会は、既存自治会のないニュータウンにできたことや、区域を小学校区と広くしたことなどの特殊性はあるものの、発足初動期の活動内容・運営方法を把握した結果、今後の自治会の運営方法を再考する上で役立つ要因として以下の点が明らかになった。

1. 若い世代による自治会運営

発足当初の役員年代が40代を中心とした若い世代であったことは、あかしあ台の自治会活動が発足初動期に活発であったことの大きな要因であった。仕事の関係でも自治会活動に時間をとりやすく、意欲的に活動を行っている。逆に現在では一斉に皆が勤務先で役職に就くなどして仕事が忙しくなり、地域での活動をする余裕がなくなっていることは、活気が失われていることにつながっており、現在の課題にもなっている。若い世代が活動の中心になるよう意識的に世代交代を図ることは組織活性化のための一要因であると考えられる。

2. 自発的な合意形成と柔軟な意志決定のしくみ

自治会発足当初の役員間の議論から、組織全体にかかわる重要なことが決められている。強制加入ではなく、住民それぞれの意志を尊重し任意加盟制にしたこと、区域を小学校区にしたこと、役員任期を4年として地域のリーダーが固定しないようにしたこと、婦人会、子供会をつくらないことなどである。既成の概念にとらわれず、新しい枠組みが発足当初のメンバーの議論によって自発的に合意形成されている。今後、地域で問題が発生した場合にもこのような合意形成のしくみが活用されることが期待できる。また、新しいものを創り出したこと

は役員満足感につながり、初期の活動を活性化させる要因ともなっている。

さらに、合意形成された内容を見直す動きも見られる。区域を小学校区にしたことについては、平成9年3月に「平成8年度あかしあ台自治会総合アンケート」を行い、組織の規模について全員の意向を把握しており、現在集計中である。また、婦人会、子供会をつくらなかったものの、住民の意向を反映し、その代替機能を自治会内の婦人文教部にもたせ、さらに婦人部、文教部と分割し、それぞれ従来の婦人会と子供会の一部の機能を担っている。実状に即した見直し可能な柔軟な組織運営がなされている。

以上のように地域で自発的に合意形成できるしくみ、状況に柔軟に対応できるしくみは、組織の規模や既存組織の有無にかかわらず、地域を代表する自治組織にとって重要な要素であると考えられる。

3. 役員会による全体調整

初動期に、開発が急テンポですすみ、地域で取り組むべき課題が次々と生じていたため、専門部会に分かれずに、役員会で全体の活動内容を議論していたことも、発足初動期が活発であった大きな要因であった。様々な能力をもった役員達が参加することによって、多くのアイデアが出され、活動を多彩に展開している。また、忙しい専門部会や、住民や行政等との調整など困難な問題にぶつかった専門部会を役員会でフォローするしくみもあった。しかし、活動が軌道に乗ると専門部会毎に活動を展開するようになり、活動がルーチンワーク化し、活気が失われる傾向がある。全体を調整する機能をもった役員会の存在意義は大きく、活気を持続させるためにも重要である。

4. 行政と住民間の調整機能

開発の動きが大きかった時期に、都市計画部会が果たした新規開発等に関する調整役の役割は意義深い。開発・行政側と住民の間で中立の立場をとったことや、日常的に三田市や公団との連携・協力を保っていることなどが、協議をスムーズに運ばせている。一般的な自治会の規模である町・地目レベルでは利害が共通化しやすく、このように客観的・中立的立場をとりやすいことが多いと考えられるが、自治会の規模が小学校区であったことが客観的・中立的に調整を行うことを可能にしている。

あ と が き

今後のあかしあ台における自治会活動の展開の方向として以下を提案する。

あかしあ台では、居住者の世代の偏りから一斉にす

む高齢化による課題が生じることが考えられる。自治会では、会員世帯が多く、予算規模も大きいため、高齢者ケアのたいへんさを多くの住民で負担するしくみを工夫することや、コミュニティハウスに老人ケアのためのサービスや施設を付加することなどが考えられる。自治会レベルで議論し、柔軟に意志決定できるしくみによって、行政レベルで行う老人ケアサービスよりもこの地域に即したきめ細かなサービスを行うことが可能であり、コミュニティハウスの運営ノウハウや常駐事務員の配置は、地域独自のケア施設運営に有効に活用されることが期待できる。

また、自発的な合意形成と柔軟な意志決定のしくみや、全体を調整する役員会、行政と住民間を調整する都市計画部会が機能していたしくみによって、地域の問題に対応するだけでなく、地域の将来像を構想し、新たなまちづくり活動を展開することも考えられる。前述の高齢化社会に向けた活動もそのひとつとしてあげられる。その他、自治会が発足したきっかけが、地区計画だけでは守りきれない住環境を自分たちで守ろうとしたことであったという経緯を重視すれば、「住環境保全に関わるルールづくり」を地域性や住民の意向に沿ってつくりだす活動を自治会で展開することも考えられる。一方、このよ

うなまちづくり活動への展開は、発足にかかわった次の代以降が主体になって議論し何かを生み出すもので、活気のある活動を持続させることにもつながるものと考えられる。

謝 辞

本研究を行うにあたって、あかしあ台自治会の初代事務局長奥村 芳和氏、初代専門部会長であった岡本 吉司氏、八木 誠氏、前橋 延光氏には貴重なお話を伺い、たいへん参考になりました。特に奥村氏には長時間にわたっておつきあいいただきました。ご協力いただいた皆様に感謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

文 献

- あかしあ台自治会(1989～1997)定時総会議案書
- あかしあ台自治会(1989～1997)広報「あかしあ」
- あかしあ台自治会(1996)あかしあ台自治会規約
- 平成9年度あかしあ台自治会地区委員・班委員会務手引書
(1997年5月31日受付)
(1997年9月12日受理)